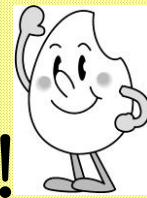


# 実のりお買得情報!



- ☆柿、なしの箱等出荷用品各種販売中!!
- ☆米収穫用品、玄米保冷库等各種販売中!!
- ☆チューリップ、ヒヤシンスなど秋植え球根続々入荷中!!
- ☆いちご苗、果樹苗各種販売中!!
- ☆玉ねぎ苗10月末頃入荷予定!!

平成26年10月号

# 実のり新聞

平成26年10月・第199号(毎月発行)

営業時間/8:00~20:00

**実のり山陽店**  
Tel (086) 955-5561  
岡山県赤磐市上市180-1

営業時間/9:00~20:00

**実のり玉島店**  
Tel (086) 523-0511  
岡山県倉敷市玉島爪崎1057-1

営業時間/9:00~20:00

**実のり大安寺店**  
Tel (086) 214-2338  
岡山県岡山市北区野殿西町418-1

営業時間/9:00~20:00

**実のり伊予三島店**  
Tel (0896) 23-0600  
愛媛県四国中央市下柏町688

営業時間/9:00~20:00

**実のり長船店**  
Tel (0869) 26-8820  
岡山県瀬戸内市長船町福岡1164-1



## < 梨と柿 >

岡山では桃やブドウに比べて栽培面積や収穫量がやや少ない梨と柿。今回は、基本的なことばかりかもしれませんが、梨と柿に関する防除や栽培方法などをご紹介します。

### 梨/チャノキイロアザミウマ防除

各産地において、チャノキイロアザミウマの被害が多くみられます。新梢の先端の葉の変色、葉の萎縮、落葉といった症状が多くみられます。しかし、チャノキイロアザミウマの実態解明や有効な防除方法は、まだまだ不明な点が多いのが実状です。ここでは現時点で把握できている生態と、防除方法の一部をご紹介します。

↓チャノキイロアザミウマの成虫



無農薬栽培の手法の一つである黄色粘着トラップによる駆除方法によると、チャノキイロアザミウマの発生ピークが積算気温とほぼ一致していることがわかりました。そのことから、気温の上昇をトラップの設置や農薬散布の目安にするとよいでしょう。

チャノキイロアザミウマは主に新しい枝の先端に生息するので、ムラなく農薬がかかるように散布し、防除効果を上げましょう。

コルト顆粒水和剤、コテツフロアブルなどが一定の効果をあらわしています。

### 梨/黒星病予防

梨の黒星病は条件が整って多発生してしまうと、以降の発病を抑えるのが難しい病気です。大切なのは、新芽が膨らみ始める春先からの防除です。

病原菌の伝染形態は、前年に感染した落ち葉からの飛散や新たに感染した病原菌から飛散するという2つのルートがあります。

#### 防除方法①

落ち葉の処理を適切におこない、春には落ち葉を残さないようにしましょう。基本は園外への持ち出しや土に埋めることです。ロータリーで耕起する方法も有効とされています。今年の感染源を断つために、また、春先にできた感染部を確実に取り除き、放置せず、土に埋めるなど適切な処理をしましょう。

#### 防除方法②

適切な時期(重要防除時期は3~5月)に薬剤を散布しましょう。一方向の散布ではムラができるので、縦横十字に散布して、散布ムラを少なくしましょう。

☆防除方法①と②を組み合わせることで高い防除効果が期待できます。

#### 秋季防除について

春先の病斑や、感染を減らすためには前年の秋の農薬散布が大事です。散布時期は落葉期から逆算して25日前(10月下旬)と10日前(11月上旬)の2回程度です。

#### 春季防除と散布農薬(例)

- 3月下旬……石灰硫黄合剤
- 4月上旬……ベルコートフロアブル・インダーフロアブル
- 4月中旬……チオノックフロアブル
- 4月下旬……ベルコートフロアブル・オーシャイン水和剤
- 5月上旬……ベルコートフロアブル
- 5月中旬……チオノックフロアブル
- 5月下旬……インダーフロアブル



### 柿栽培の基本

柿は根が深く、貯蔵養分が多いので肥料に対する反応は一般的に鈍いほうです。また、細根は多湿には比較的強いですが、乾燥に弱く、養分や水分の急激な変化を嫌い、土の塩分濃度や窒素濃度が高くなると伸びた新根が枯れる場合があります。

柿の木は、5月頃から養分を吸収するようになるため、それまでの発芽、開花に必要な養分は前の秋に蓄えられたものでまかなわれます。そのため、蓄えられた養分を浪費させないために適正着果に心がけ、葉の保護と受光体制の改善が重要になります。また、6~8月のチツノの過剰吸収は着色が遅くなるなど品質に影響が出やすくなります。

肥料散布は、これまで12~1月の元肥が中心とされてきました。しかし、時期が早いほど養分吸収率が高く、10月以降に吸収されたチツノの多くは根に残り、果実の着色を抑える危険がないことと、消耗した樹体を早く回復させ、貯蔵する養分を少しでも多くできるなどの点から、お礼肥は10月、元肥は11月に散布するのが効果的のようです。